

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 家畜伝染病防疫対応強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4159)

E-mail : c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 14,392千円 (前年度予算額) 14,688千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	14,688	145	0	0	0	0	0	0
要求額	14,392	144	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

国内では、豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど、家畜伝染病予防法により、特に総合的に発生予防及びまん延防止のための措置を講ずる必要があるとされている家畜伝染病が継続的に発生しており、岐阜県においては、豚熱が平成30年9月から令和元年9月にかけて断続的に、また高病原性鳥インフルエンザが令和3年1月、令和6年1月、11月に発生した。

また、従来アジア地域では発生のなかったアフリカ豚熱も中国や韓国にて発生し、国内への侵入が懸念されている。

これらの家畜伝染病については、国が特定家畜伝染病防疫指針を作成・公表しており、家畜衛生関係者及び生産者はこの指針に基づき、一体となって家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に取り組む必要がある。

(2) 事業内容

- ・家畜伝染病の現状を理解し、万一の発生時へ備え、関係者の危機管理意識の更なる向上を図るため、家畜伝染病（豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等）に関する防疫演習を開催する。

- ・特に農場への侵入が懸念される豚熱及び高病原性鳥インフルエンザについて、対象農場の防疫意識の向上を図るため、農場の一斉消毒等を実施する。

①一斉消毒等の実施

養豚場及び養鶏場に消石灰を配付し石灰消毒を実施するとともに、確実な石灰散布や、飼養衛生管理基準の遵守指導を併せて指導

②防疫演習の開催

家畜伝染病の発生を想定した実働演習のほか、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱の発生予防をテーマとする講演等を開催

対象：県内農家、県内獣医師、家畜防疫員等

(3) 県負担・補助率の考え方

① 県：10/10、② 県：1/2、国：1/2（消費・安全対策交付金）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	59	防疫演習旅費
需用費	14,333	防疫演習等消耗品、消石灰
合計	14,392	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2) 安らかに暮らせる地域
 - ⑥災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・「ぎふ農業活性化基本計画」（R8～12）（仮称・令和8年3月策定予定）
 - 基本方針4 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
 - 4 生産を脅かすリスクへの対応
 - ①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

家畜伝染病（豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等）に関する防疫演習を毎年開催し、家畜伝染病の現状を理解し、万一の発生時へ備え、関係者の危機管理意識の更なる向上を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①防疫演習の参加者数		150	100	100		150%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	全国的に発生が続く高病原性鳥インフルエンザに対し、鶏の死体の処分方法として、埋却以外の手法である移動式焼却炉を活用した防疫演習を開催し、焼却手法の実証を行った。 参加者数：207人
	指標① 目標：100 実績： 207 達成率： 207%
令和 5 年 度	防疫演習を開催し、全国的に発生が続く豚熱及び高病原性鳥インフルエンザに対し、関係者の危機管理意識の向上を図った。 参加者数：134人
	指標① 目標：100 実績： 134 達成率： 134%
令和 6 年 度	防疫演習を開催し、全国的に発生が続く豚熱及び高病原性鳥インフルエンザに対し、関係者の危機管理意識の向上を図った。 参加者数：150人
	指標① 目標：100 実績： 150 達成率： 150%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	国の特定家畜伝染病防疫指針に基づき、家畜衛生関係者及び生産者が一体となって家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に取り組む必要があることから、本事業を実施する必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	豚熱の防疫作業で培った家畜伝染病の発生時の防疫対応のスキル・ノウハウ等について、防疫演習等の実施により共有・継承ができている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	課題や目的を明確にして、演習内容を設定・実施することで、事業の効率化を図った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 海外での家畜伝染病の発生状況、国内での野生いのししの豚熱発生状況から、農場での発生リスクはなくならず、継続的な事業実施が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 家畜伝染病の発生予防・まん延防止のためには、継続した取り組みが必要であり、引き続き関係者の危機管理意識の向上に取り組む。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	